

奈良県立大学・上海師範大学 共催 国際セミナー「アジアの国際観光交流について」

小松原 尚 奈良県立大学 教授

「日本の産業景観を楽しむ」

2017年10月15日(日) 奈良県立大学 地域交流棟2階 中研修室

目線 高いか低いか
乗物 自動車、鉄道、船舶
時間 昼か夜か

※画像編集技術の平準化

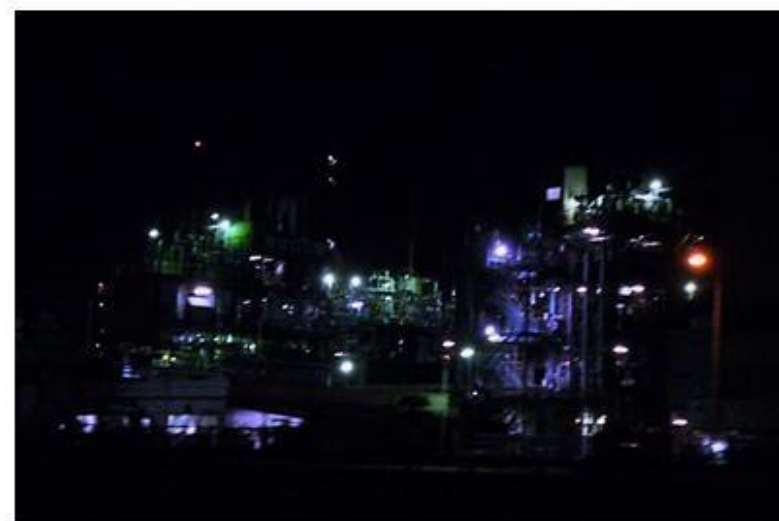
周南(徳山) 新幹線から昼も夜も



川崎 工場夜景バスツアー



四日市 コンビナート夜景クルーズ



石油精製所 室蘭



阪神電車の吊り広告

6-1



阪神電車
Hanshin Railway

沿線百景

近い電車
未来。けるで

兵庫なら大阪にまさる阪神
工業地帯な多岐用途に輝く景
平野原が、朝光スポットと
して注目されています。オレ
ンや緑色の照明に浮かび
上がる巨大タンクや煙突、複
雑に組みあがる配管。どこか
ノスタルジックな、いては未来
を感じさせる景色に魅了する
ことを、ファンの間では「職
場と暮らしのなか、職の美
さがあふれる頃、夕陽みなが
ての家庭」、「近未来シアター」に
だけありません。無言な
鉄の塊と組んでいたコンビ
ナートが、スベクタクランに
わたる多岐用途の舞台に輝き
つゝながら発展です。



阪神電車
Hanshin Railway

伊勢から志摩への楽しい旅時間

産業観光の特徴

● 産業遺構 近代化遺産、用地用途変更

● 工場見学

● 産業景観

工場見学の限界性

○ 写真撮影禁止

○ 無機的な構内

○ 会社案内のみ

産業景観を活用した夜景観光

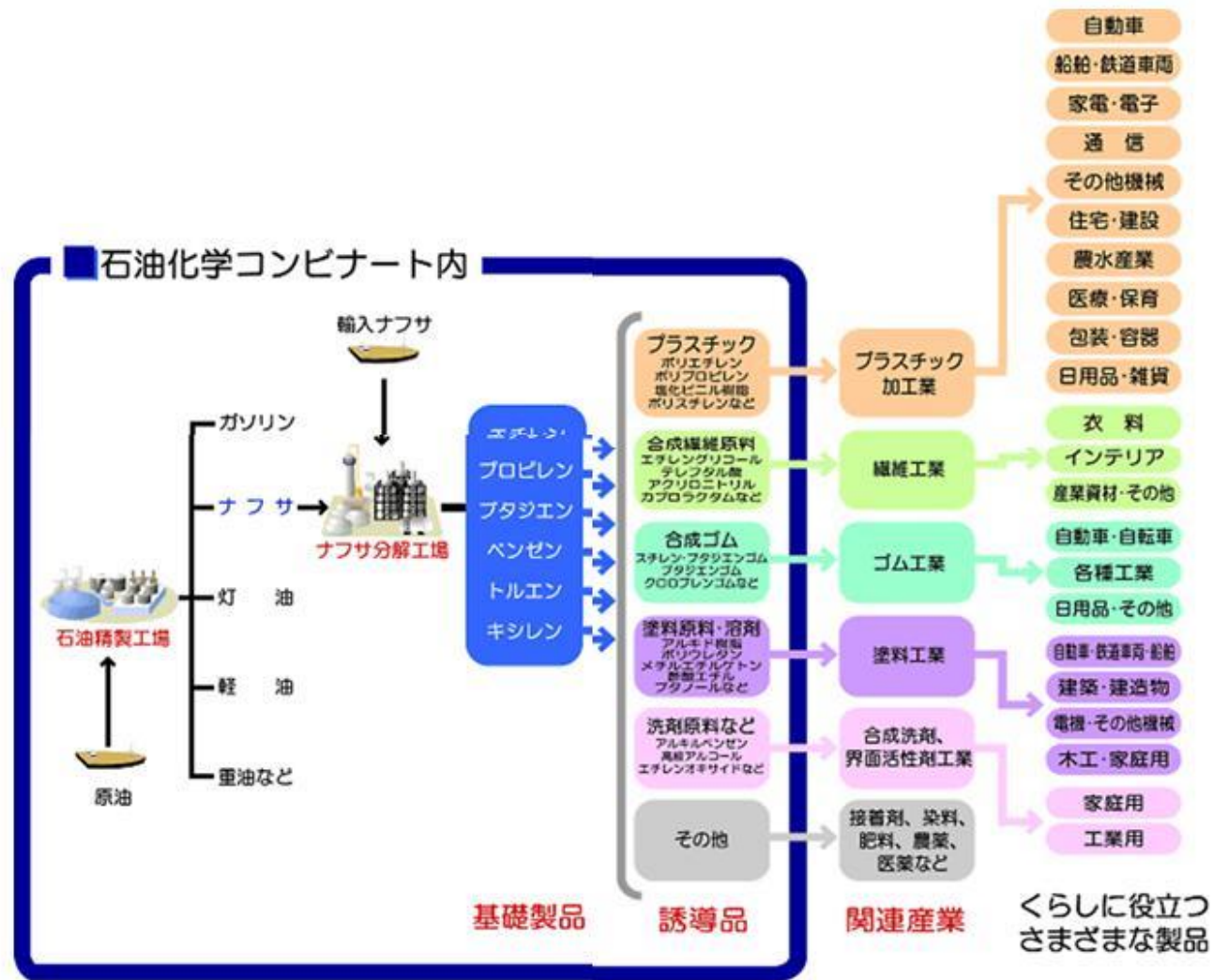
産業施設への関心の高まり

地元の期待

石油化学コンビナート (石油化学工業協会資料より)

石油精製工場、ナフサ分解工場、いろいろな石油化学誘導品工場が一つの場所に集まっているところを石油化学コンビナートといいます。工場の間は多数のパイプライン (配管) で結ばれていて、いろいろな原料や製品がやりとりされています。日本には9つの地域 (大分、周南、岩国・大竹、水島、大阪、四日市、川崎、千葉、鹿島) に15の石油化学コンビナートがあります。





29 ことがなにより重要である。その方法の一つに環境アセスメント(環境影響評価)があるが、それを形式だけではなく、実効あるものにするためにも、情報の公開や住民の運動・参加が必要とされている。

成などを義務づけている。また、国は地球環境の保全などに関する国際協力も推進することとしている。



高等学校公民科用文部省検定済教科書現社522一橋出版、1999年1月、27頁

的遺産も同様で、いったん破壊されたら元に戻すことができない絶
 対的損失である。

	提 訴	被 告	判決 賠償金額	請求の原因
新潟水俣病	1967.6	昭和電工	1971.9原告勝訴 約2億7,000万円	工場廃液中 の有機水銀
四日市 ぜんそく	1967.9	昭和四日 市石油ほ か5社	1972.7原告勝訴 約8,800万円	石油化学コ ンビナート 排出の硫黄 ・窒素酸化 物
イタイ イタイ病	1968.3	三井金属 鉱業	1972.8(二審) 原告勝訴 約1億4,800万円	鉱山から排 出されたカ ドミウム
水俣病	1969.6	チッソ	1973.3原告勝訴 約9億3,700万円	工場廃液中 の有機水銀

↑ 四大公害裁判



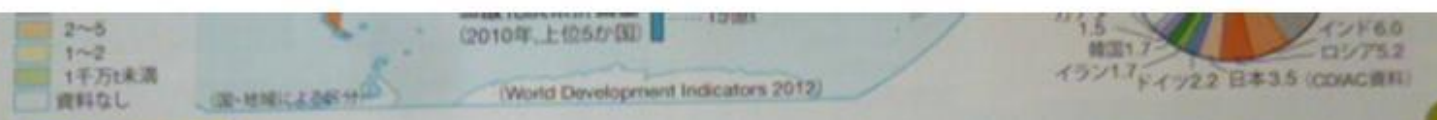
↑ 公害苦情受理件数の割合の推移

四日市公害と環境未来館の試み



ダークツーリズム

- 非日常性
 - 犠牲者の追悼
- 臨場体験
 - 事実の記憶
- 異文化交流
 - 教訓を伝える



大気汚染

4 衛星データによるPM2.5(粒子状物質)の分布 (2001年~2006年平均)

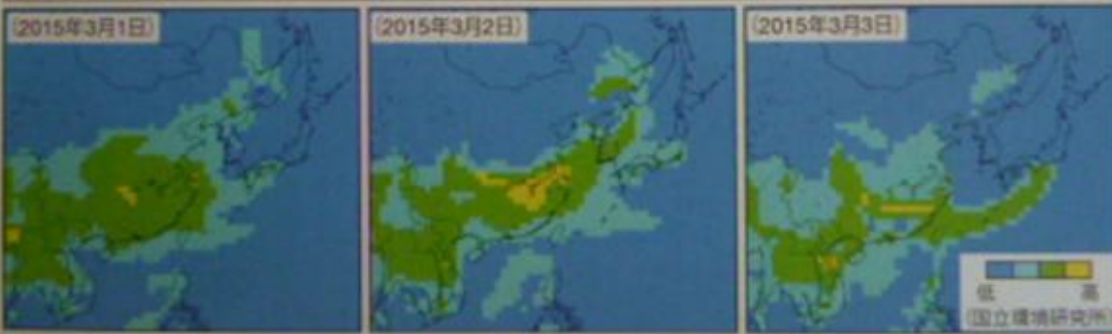
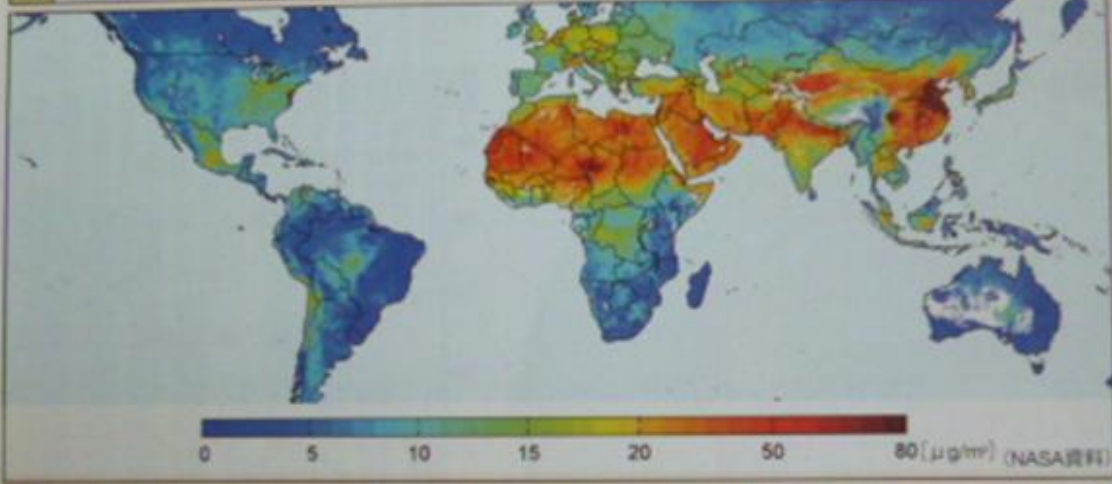


図4は人工衛星に搭載された分光放射照度計により観測されたPM2.5の濃度である。衛星からの観測のため、人為起源によるものが自然起源によるものと区別ができない。北アフリカや中国西部に見られる高濃度地域は、サハラ砂漠・タクラマカン砂漠などの砂漠地域の砂が、風により巻き上げられた自然起源のものと考えられている。中国東部やインドに見られるPM2.5の飛散量の多さは、人為起源によるものが多いと思われる。特に中国華北の近辺に高濃度の地域が観測されていて、それが偏西風によって周辺国に広がっているものと推定されている。上記以外で局所的に濃度の高い場所は、大都市の大気汚染に対応していると考えられている。大気汚染は国境を越えて広がる問題であり、各国の責任ある対応と国際的な連携が求められている。PMとは、particulate matter(粒子状物質)の略。

高等学校地理歴史科用文部科学省検定済教科書130二宮書店地図311、2017年2月、140頁

環境への理解と国際観光

- 越境公害、周辺国との相互理解
 - 振興工業国での公害の発生
 - 新たな汚染物質・放射能

奈良県立大学と上海師範大学 旅游学院との学術交流

都市と観光研究を主体に展開

2009年4月より

刊行物(奈良県立大学「研究季報」特集号)

2012年1月刊、22巻2号

「変貌するアジアと観光」

2015年1月刊、25巻2号

「都市－過去・現在・未来」